

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590700011		
法人名	医療法人 秀英会		
事業所名	グループホーム長寿	ユニット名	Bユニット
所在地	宮崎県串間市大字奈留5333番地		
自己評価作成日	平成30年9月3日	評価結果市町村受理日	平成31年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiqokensaku.mhw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=4590700011-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成30年10月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

歩いて行ける距離に併設医院があり必要な時にいつでも医療を受けることができます。また、スーパーや郵便局等もある為、スタッフと散歩の際に利用することができます。グループホーム敷地内には畑もあり季節ごとに色々な野菜を植えています。収穫したり調理したり自宅に近い状況の中、生活することができます。併設の介護老人保健施設では月に1回の合同誕生会や夏祭りがあり利用者様の交流もみられています。また夏と冬には地域の小学校と暑中見舞い、年賀状交換の交流も図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員による地区清掃活動等や地域住民、家族、ボランティアなどの協力を得て、利用者の生活の拡がりや充実を図っている。利用者の出番や役割を出来るだけ持ってもらい、利用者や職員が持ちつ持たれつの支え合いの関係を保ちながら認知症の進行を穏やかにし、安心、充実感が得られるケアに取り組んでいる。また、継続的な研修の受講やOJT(職場での働きながらの学習)の確保にも力を入れ、全職員で研修の内容を共有できる体制づくりに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	Bユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔で優しく思いやりの心で接し心が和らぐ居心地の良い家づくり」という理念があり毎朝1つの目標を立て業務に取り組み夕方には振り返りを行っている。	ホームを運営する上でケアで迷った時の拠りどころとするように理念の共有と実践に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の清掃活動に参加したり法人主催の夏祭りに地域の方々に多数参加して頂いている。その他、小学校へ介護教室に行ったり暑中お見舞いや年賀状のやり取り等、交流の機会を設けている。	近隣訪問として隣接の施設に出かけたり、地域の人達と交流している。また、近隣住民、家族、ボランティア等と繋がりながら、利用者の生活のひろがりや充実を図れるよう支援している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の方への接し方について伝えている。毎月施設での便りを発行し活動内容や認知症に関する情報をのせ、併設医院等にも掲示し多くの方の目に触れるようにしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議を開催している。会議内で活動状況等の報告を行い、内容に対して意見を頂いている。会議内容は定例会にて全スタッフに伝えている。	ホームの現状報告と参加メンバーによる協議や有効な情報交換を行い、サービス向上に生かすよう取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所と月1回の情報交換を行い、事業所の運営に情報の繁栄ができるように努めている。また地域包括センターや市役所と一緒に地域事業所との交流会にも参加している。	日頃から連絡を密に取り、相談事や意見を聞きたい時は、運営推進会議時等や市役所に出向いて、協力関係の構築に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	以前に利用者様が玄関から離脱したことと運営推進会議で上がった意見としてトビラに鈴を付けて対応している。利用者様の状況に応じて玄関の施錠を行うこともある。	研修や勉強会で身体拘束の弊害を理解しながら拘束をしないケアに取り組んでいる。外出傾向のある利用者の安全と自由な暮らしを支える取組として、扉に鈴をつけて対応している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニットのリーダーは利用者様の身体にできた痣や傷を必ず確認し、いつからあったのかを全職員に聞いて確認して。激しい言葉かけが聞かれた場合にはその場で注意し指導している。			

自己	外部	項目	自己評価	Bユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は学ぶ機会が無かった。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に説明を行い理解、納得をして頂いている。また、加算等利用料の改定があった際は、その都度説明を行い理解を頂いた。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様からの意見についてはミーティング時にスタッフに伝えるようにしている。改善結果をご家族様に報告している。	家族の意見、要望を気軽に職員に伝え、相談できるよう訪問時の声掛け、定期連絡などに努めている。要望に関しては全職員で共有し、改善結果を家族に報告するよう取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場職員の要望は主任、副主任が受け、そのことを管理者へ伝えるようにしている。必要物品がある場合も早めに対応して頂いている。	管理者は、直接または報告により、職員の状況を把握するように努め、サービスの向上に取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準は能力に対する評価を含め少しずつ上がってきている。職員個々の努力を評価して頂き会った際には労いの言葉をかけている。やりがいや向上心を持って業務を行えている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や法人内の職員会議で行われる勉強会を職員が交代で行い講義する側、受ける側、共に学べる機会を設けている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に2回ある事業所交流会に参加し同業者との意見交換を行っている。今年は包括支援センター主催の「認知症徘徊模擬訓練」があり施設職員も協力スタッフとして参加している。			

自己	外部	項目	自己評価	Bユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前は御本人様との触れ合いや面談を行い、信頼が得られるように人間関係の形成を目指している。その上で施設見学を勧め御本人様の希望等を伺い安心して入居されるようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前は御家族様との面談を行い困り事や心配事を共有し信頼関係を築いた上で具体例等を示し安心して入居できるように説明している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅での生活が可能と感じられる利用者様については居宅担当ケアマネやそれまで深く関わってこられた他サービス関係者の意見を聞き、他の選択肢はないか、必要に応じて御本人様、御家族様に説明している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御利用者様には生活する中で役割をもって頂き、知恵や知識を教わりながら互いに助け合って関係を築いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	互いに相談や意向等を話し合えるようコミュニケーションを図り御本人様と一緒に支える関係を築けるよう努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出支援の中で自宅や墓参り、馴染みのある場所等に定期的に行く「ふるさと訪問」を行い今まで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。	利用者の行きたい場所への訪問支援を大切にし、その実現に向けた取組を行っている。家族等と協力し、馴染みの人々や場所との関係継続を支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	難聴の利用者様には職員が間に入り互いにコミュニケーションが図れるよう支援を行っている。風船バレーは全員参加され楽しまれている為、頻回に行われている。			

自己	外部	項目	自己評価	Bユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居しても移り住み先の関係者へ情報の提供を行っている。時々様子を伺いに面会させて頂くこともある。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人様、御家族様の要望はもとより、アセスメント及び全職員でモニタリング、カンファレンスの経過を反映して次のプランを作成している。	やさしい言葉かけや和やかな会話で馴染みの関係を築き、意向を把握し、生活歴、生活習慣、エピソードを踏まえ、家族等の情報も得て本人本位に検討するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者状況表、基本情報、アセスメント表で利用者様の今までの暮らしを把握して、その後のグループホームでの生活に活かしている。また、御家族様から新しい情報にも耳を傾けるようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録に24時間シートを使用している。家事活動、レクリエーション活動状況等一目で分かるように支援内容に番号を打っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを各担当職員と計画作成者と一緒に行ったうえで事業所全体でのカンファレンスを行い、計画作成者が介護計画を作成している。	本人、家族と話し合い、担当職員や関係者の意見等を反映した利用者本位の介護計画を作成している。毎月、モニタリングを行い、見直しは、状況の変化に応じて随時行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に24時間シートを使用している為、排泄パターンや日々の生活パターンを把握しやすい。ケース記録とは別に日誌を記入しており出勤スタッフは業務に入る前に必ず確認するようにしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対し出来る限り迅速な対応を心がけている。御家族様が面会に来れない場合はこちらから出向くこともある。			

自己	外部	項目	自己評価	Bユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歩いて行ける距離に病院、スーパー、郵便局等ある為、必要に応じてスタッフが付き添いで利用している。月に1回の誕生会ではボランティアの方が来て下さったり、その他実習生の受け入れも行っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に併設医院がかかりつけ医になることを説明し同意して頂いている。専門医を受診されている場合は継続して通院介助を行っている。	家族等の同意を得た上で、母体医院の受診を支援している。また、他科受診等は、家族の協力を得て適切な医療が受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で御利用者様の異変に気づいた時には些細な事でも看護師に報告して指示を仰いでいる。基本的に看護師がかかりつけ医に連絡をし受診するようにしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、病院関係者と情報交換を行ったり担当計画作成者や看護師が直接お見舞いに行くこともあり、その際現状を聞いている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に御家族様には十分に説明を行い重度化した際の方針について書面で同意を得ている。状況に応じて随時、御本人様、御家族様の意向を重視した終末期における支援を行っている。	利用開始時に指針を示し、同意を得ている。状況に応じて家族や関係者で話し合いを持ち、その時々での支援を確認した体制づくりに取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法やAEDの使用法の訓練を定期的に行っている。御利用者様が急変した場合の連絡手順は事務所に掲示している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、防災会社の担当者様や近隣住民の方々から御協力を頂きながら地震、火災を想定した避難訓練を行っている。併設の介護老人保健施設には非常食の備蓄も行っている。	災害対策として、年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施している。実施時には、消防本部、防災会社、近隣住民など多数の参加や協力を得て災害対策に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	Bユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや浴室使用时、戸を閉めて対応できているが、居室は見守りができないこともあり殆どの居室は戸が開いている。尿、便失禁等で介助にて更衣する際、自尊心を傷つけないよう心掛け言葉使いに注意している。	利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシー確保について代表者、管理者が職員と話し合いを行い指導しているが、ハード面で目が届きにくいこともあり、居室やトイレの戸が開いている。	全職員で利用者の尊厳と権利を守り、プライバシーの確保をしていくための解決策を考え、対人援助の基本の徹底が実現できることに期待したい。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けで御利用者様が「はい」「いいえ」で返事できるように「窓を開けてもいいですか？」等の声かけを行っている。月に1回選択メニューの日があり写真を見てメニューを決めて頂いている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御利用者様に何かしたいこと等を声掛けながら要望を引き出している。レクリエーションで道具が必要な場合職員だけ作るのではなく御利用者様にも手伝って頂き楽しみながら活動している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝起きて洗面、歯磨き等の整容を行っている。一部の方は御本人で衣類のコーディネートされる。入浴の際は一緒に服を決めたり「なんでもいい」と言われた方にはスタッフが服装を考えている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で採れた食材の種取りや切り込み等、数人の御利用者様に行っている。食前、食後のテーブル拭きや御膳拭き等も手伝って頂いている。	収穫した野菜を使って職員と一緒に食事の準備をしたり、月に2~3回行事食にしたり、食事が楽しみなものになるよう取り組んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病院受診を定期的に行っており体重の増減や浮腫状況を診察され医師よりカロリーや水分量の指示がある。必要に応じて高カロリーの飲み物や水分摂取量の少ない方にはジュースや違う飲み物を提供し水分量の確保を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い声掛けや一部介助等一人一人に合った対応を行っている。夜は義歯洗浄剤を使用し消毒を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	Bユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	カンファレンス時にオムツ使用方法についての意見があがり下剤服用時のみ尿取りパットを使用したり時間経過で排泄の声掛けを行い失敗が減るよう努めている。	排せつパターンを把握した、早めの声掛けや誘導を行い、自立に向けた支援に取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取やホーム内、屋外での歩行訓練を行ったり下剤の調節を行いながら便秘予防を行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に1日おきの入浴を行っている。希望を聞き連続して入浴される方もおられる。入浴前はゆっくり声掛けを行いリラックスした状態で浴室へ誘導。入浴後は水分補給を促している。	本人の希望を優先し、入浴日をホワイトボードに記したり、朝の体操時に伝達して、入浴日の理解や安心感を持ってもらう工夫をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中食堂や自室にて自由に過ごされ休息も出来ている。昼夜逆転がみられる方には夜間安眠できるよう食堂でレクリエーションや屋外散歩に参加して活動をして頂く。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の取り扱いについては看護師よりその都度説明を受け症状の変化がある場合には医師に相談し対応している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様それぞれが役割をもって生活されている。楽しみ事で外食支援やお花見ドライブ、毎週日曜日にカラオケ大会を開催し殆どの御利用者様が参加されている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望がある時には買い物に出たり計画を立ててドライブ等にも出かけている。散歩は本人様にお声掛けをしたり自ら希望されることもありその都度対応している。	隣接の介護老人保健施設に出かけ、地域の人達と交流している。日常的に利用者の歩ける距離を散歩したり、家族等の協力を得て、ドライブや個別の外出支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	Bユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別に事務所で預かり管理している。定期的に残金確認を御家族様と一緒にやっている。また本人様の希望にて自己管理できる方は所持している。外出した際、預かり金や所持金からお買い物をして頂いている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人様の希望時にいつでも事務所で電話することができる。手紙セットを所持されている方は直筆された手紙をスタッフと一緒にポストに投函できている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり装飾をレクリエーション時に作りホーム内に飾ったりして季節を感じて頂いている。日光が眩しい時にはカーテンを閉め光の調整も行っている。	季節の花等も飾られ、不快感や混乱をまねかないように配慮されている。利用者の作品を窓に飾り、光を遮断するなどして活用し、居心地よく過ごせるよう工夫している。設定温度については職員と再々話し合いを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂には畳のスペースもあり洗濯物を畳んだり、少し横になりたい時に休んで頂いている。廊下の隅にマッサージ機を設置し、外の渡り廊下や玄関先には椅子を並べているため、いつでも外気浴を行える。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、使い慣れたものをもってきて頂けるよう説明している。家族写真や思い出の写真飾り落ち着いた生活を送れる工夫している。	利用者や職員で作った作品、写真や思い出の品々が置かれている。本人のペースを大事にして、安全を保つための整理整頓も心がけ、居心地よく過ごせる居室づくりに配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には御本人様、御家族様に了承を得て表札をつけたり、トイレ、浴室には張り紙を貼り認識しやすいように工夫している。トイレに手すりや移動バーがなく折り畳み式の肘おきの手すり代わりにしている。利用者様にとっては自力でされる際、不便なのではないかと思われる。			